

を目指す「地方創生」がキーワードで上京する若者は絶えない。環境の中、不断の努力で才能をを浴びる一。その姿は古里の人まれ育った四国を飛び出し、ダ分野で活躍する若手4人から、

これまでの歩みや現在の心境を聞くとともに、新居浜市出身の作家・演出家鴻上尚史さんに、次世代の「表現者」を育む地方の在り方を論じてもらった。

四国4新聞社合同企画

若き表現者 飛躍



体験や出会い 音の糧に

尺八演奏家・作曲家 中村仁樹さん(32)

— 宇和島市出身

尺八で邦楽、洋楽の垣根を越えた楽曲を作曲・演奏する。壮大で深い音色

が、国内外を問わず多くの人を引き付けてやまない。い。

幼少時からピアノに親しみ、中学からエレキギターに打ち込んだ。転機は高

校2年。住職の父が趣味で吹く尺八に興味を抱いた。さらに東京の奏者が鳴

なかむら・まさき 1983年宇和島市生まれ。城北中、宇和島東高、東京芸術大卒。国内外で公演し演歌歌手や交響楽団などとも共演。これまで発表したアルバムは10枚で2月に初のソロアルバムを予定。東京都渋谷区在住。

らす力強くみずみずしい音に衝撃を受け、とりこになった。

口から血がにじむほどの猛練習で東京芸術大邦楽科に現役合格したものの、周りは家元の子息ら古典にも通じた学生ばかり。劣等感をばねに消灯後も夜更けまで一人吹くなど、1日8時間、腕を磨き続けた。

3年時、尺八新人王決定戦で前評判を覆し優勝。注目を集め「プロとしてやっていける」と自信が付いた。卒業後、東京邦楽コンクールに優勝し、軌道に乗った。

以前は楽譜通りの音を出すそうとしていたが、近年は即興が増え演奏に幅が出てきた。「人生と音楽はシンクロする。表現には感情の引き出しが必要」と考え、音楽に限らずさまざまな体験や人との出会いを大切に

古里でも公演の機会は

東京一極集中からの脱却を目指す「地方創生」がキーワードの昨今だが、夢を追い求めて上京する若者は絶えない。ライバルがひしめく厳しい環境の中、不断の努力で才能を磨き、華やかな世界で脚光を浴びる一。その姿は古里の人々を勇気づけるだろう。生まれ育った四国を飛び出し、ダンサーや演奏家など芸能の分野で活躍する若手4人から、

これまでの歩みや現在の心境を聞くとともに、新居浜市出身の作家・演出家鴻上尚史さんに、次世代の「表現者」を育む地方の在り方を論じてもらった。

四国4新聞社合同企画



尺八を演奏する中村仁樹さん。「さまざまな出会いや新しい体験が音楽の刺激になっている」と語る

—東京・紀尾井町のホテルニューオータニ(撮影・愛媛新聞・松本尚也)

体験や出会い 音の糧に

尺八演奏家・作曲家 中村仁樹さん(32)

—宇和島市出身

尺八で邦楽、洋楽の垣根を越えた楽曲を作曲・演奏する。壮大で深い音色が、国内外を問わず多くの人を引き付けてやまない。幼少時よりピアノに親しみ、中学からエレキギターで吹く尺八に興味を抱いた。さらに東京の奏者が隔

らす力強くみずみずしい音に衝撃を受け、とりこになった。

口から血がにじむほどの猛練習で東京芸術大邦楽科に現役合格したものの、周りは家元の子息ら古典にも通じた学生ばかり。劣等感をばねに消灯後も夜更けまで一人吹くなど、1日8時間、腕を磨き続けた。

3年時、尺八新人王決定戦で前評判を覆し優勝。注目を集め「プロとしてやっていける」と自信が付いた。卒業後、東京邦楽コンクールに優勝し、軌道に乗った。

以前は楽譜通りの音を出そうとしていたが、近年は即興が増え演奏に幅が出てきた。「人生と音楽はシンクロする。表現には感情の引き出しが必要」と考え、音楽に限らずさまざまな体験や人との出会いを大切に

する。古里でも公演の機会はあるが、地方でのコンサートがもっと増えればと願う。「東京は縁が多いと言われるが、それは残そうと努力をしている人たちがいるから。文化も同じ。地方にも音楽家を育てる『場』が必要だ」

(愛媛新聞・山本良)